

ハネビロエゾトンボ *Somatochlora clavata* Oguma

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は50%、
現存数は6であり、絶滅危惧Ⅱ
類に相当する。

【形態】

全身が鈍い金属光沢のある暗
緑色で、邦産のエゾトンボ属中
最大種である。エゾトンボとは
腹部第4節以降に黄色斑がない
ことで区別できる。

和名は後翅の広いエゾトンボ
の一種という意味である。



♂. 長久手町一ノ井, 1991年9月23日, 高崎保郎 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河の主に丘陵地に分布する。また、
渥美半島の一部にも飛び離れて分布し、これ
までに12市町村で記録されている。

【国内の分布】

北海道中部から九州南部にかけて分布し、
佐渡島、対馬等の離島でも記録されている。

【世界の分布】

韓国に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに丘陵地の細流を伴う湿
地や、落ち葉等が堆積した水流の緩い小河川
等に見られ、林内の細流上で縄張り飛行する
ことが多い。未熟成虫は、発生地付近の開け
た空間や路上をゆっくりと飛行する。幼虫は、
落ち葉や石などのすき間に潜り込んでいる
ことが多いが、流れの速い部位や深過ぎる部位
では見られない。

成虫は6～7月頃に羽化し、成熟成虫は8～9月を中心に見られる。成虫になるまでに2年程度かかると思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

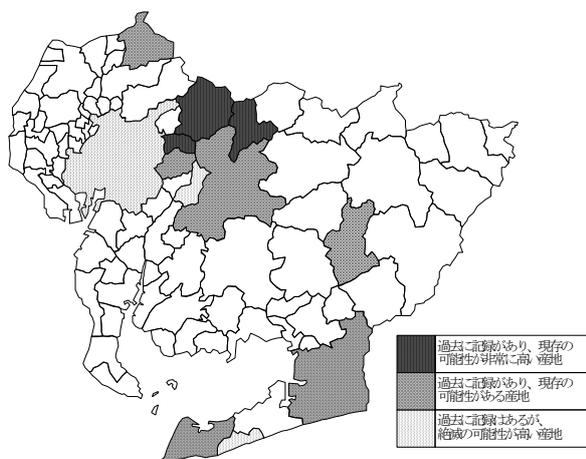
尾張から西三河にかけての東部丘陵には点々と現存する。東三河では近年調査されておらず、生息状況はわからない。いずれの産地も個体密度は非常に低く、先行きが懸念される。長久手市前熊一ノ井周辺は、愛知県最大の産地であったが、この数年の宅地開発などにより消失した。

本種は二次林を流れる小川に生息する例が多く、その水位低下や干上がりは、本種の生存に大きなダメージを与える。すなわち健全な二次林があってこそ、本種は生育できるのである。本種の減少は、二次林の荒廃を現していると推測される。

【保全上の留意点】

- 1) 幼虫の生息域である小川及びその集水域を涵養する二次林の保全
- 2) 成虫の休息域である水域周辺の林地の確保

県内分布図



(吉田雅澄)